

2024

No.134 営農情報誌

7月号

J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課
TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085



病害虫対策と幼穂形成期の栽培技術ポイント

今後の生育には病害虫対策、穂肥施用、常時湛水管理が重要です。


紋枯病

概要

- 例年は6月中旬頃より発生が見受けられ、高温年に多い。
- 前年多発した圃場では発生しやすい。
- 病斑は周辺部が褐色、内部が淡褐色の楕円形で、最初下部の葉鞘にでき、上位に進展する。
- ひどいときは葉や穂も枯らす。



対策

薬剤	防除ポイント	散布時期
リンバー粒剤 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 株元に病原を確認したら散布が効果的 ✓ 特に昨年発生ほ場は注意!! 	収穫30日まで



いもち病

概要

- 例年は6月中旬頃より発生が見受けられる。
- 高温多雨が多いと多発し、多肥は発生を助長する。
- 急性型病斑は伝染力が強い。
- 多発するとイネが萎縮し、ずりこみ症状を示す。
- 葉、節、穂首、枝梗、もみなど根以外のすべての部位で発病する。

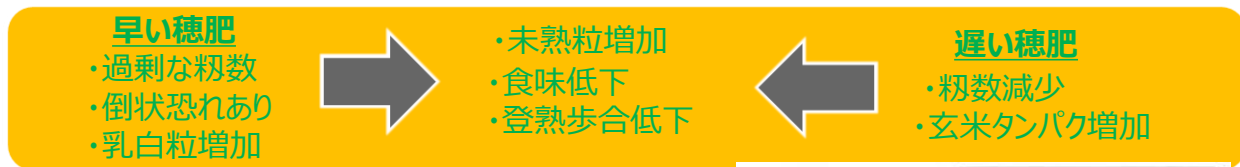


対策

薬剤	防除ポイント	散布時期
コラトップ粒剤5・ジャンボP・豆つぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 発生が確認されたら、出穂3~4週間前の散布が効果的 	出穂30日前~5日前まで
ブラシン粉剤DL 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 発病初期を逃さず散布。 ✓ いもち病の病斑を見つけたらただちに防除。 	収穫7日前まで

幼穂形成期と穂肥について

穂肥のタイミングは圃場や移植時期によって異なるため、必ず幼穂を確認し適切な時期に施用してください！



幼穂を確認しましょう
ご不明な点は営農渉外にお問い合わせ下さい



幼穂のある位置

幼穂長 1 mm
(出穂前 2 5 日)

幼穂長と出穂前日数の目安

出穂前日数	幼穂長(mm)	備考
25日	1.0	倒伏しにくい品種の穂肥時期
18日	5~10	倒伏し易い品種の穂肥1回目
出穂期	圃場の4割が出穂した時	

キヌヒカリや日本晴のような倒伏に強い品種では、幼穂長 1 ミリの時に 1 回で施用する。コシヒカリや滋賀羽二重糯のような倒伏しやすい品種では、2 回分施を基本とし、1 回目を幼穂長が 1 0 ミリの時（出穂前18日）、2 回目をその 1 週間後（出穂前11日）または 2 週間後（出穂前4日）に施用する。籾の退化を抑え、粒の充実を助ける為に施用します。

本田害虫防除

うまい汁は
吸わせない！

キラップ® 粒剤

殺虫剤分類 2B

農林水産省登録 第22079号
有効成分：エチプロール 2.0%
®はバイエルグループの登録商標



【特長】 ○散布適期の幅が広い！ ○粒剤なので散布が楽！

<玄米の着色粒>

玄米の着色粒は、ごく僅かな混入でも生産物の品質や価格に大きな影響を与えます。等級落ちの原因となる着色粒には、斑点米カメムシ類による「斑点米」以外にも、イネシガラセンチュウによる「黒点米」、糸状菌による「変色米」などがあります。近年、斑点米カメムシ類の発生増加にともない、着色粒の主要因が「斑点米」になってきており、大きな問題となっています。



等級	一等米	二等米	三等米
着色粒混入限度 (水稲うるち玄米)	0.1% 以下	0.3% 以下	0.7% 以下

規格外：1等から3等までのそれぞれの品位に適合しないもの（0.7%を超えるもの）

適用害虫および使用方法

2022年12月末日現在の適用内容

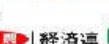
作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチプロールを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類 ウンカ類	3kg /10a	収穫14日前 まで	2回以内	湛水散布	2回以内 (は種時(直播) 又は移植時 までの総量は 1回以内)



※使用前にはラベルをよく読んでください。ラベルの記載以外には使用しないでください。農本剤は小児の手の届く所には置かないでください。農薬はほ場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。農防除日誌を記録しましょう。



JAグループ
農 協



北興化学工業株式会社
〒110-8557 東京都港区北青山1-1-10